

6月24日の米国株式市場の下落について 新型コロナウイルス懸念のほかにも悪材料が重なる

2020年6月25日

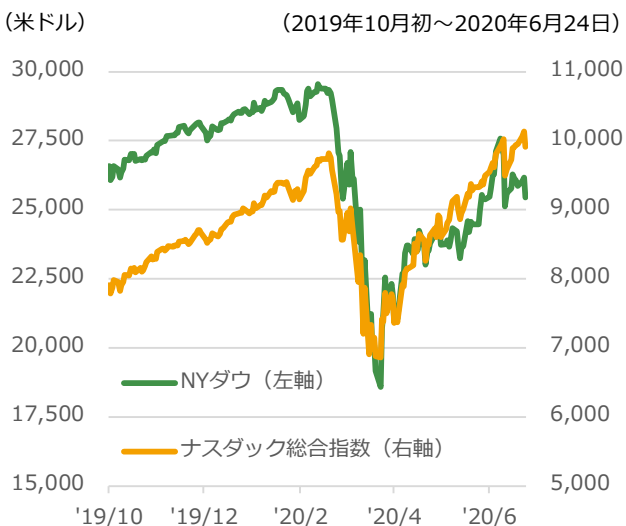
感染第2波が意識される中、貿易摩擦懸念などが再浮上

6月24日（現地、以下同様）の米国株式市場は、NYダウ、S&P500、ナスダック総合の主要3指数がそれぞれ2%を超える下落となりました。下落の要因としては、以下のような点があげられます。

- IMF（国際通貨基金）が、2020年の世界経済の成長率見通しを4月発表のマイナス3.0%から、今回はマイナス4.9%に下方修正したこと。
- 欧州各国からの輸入品に対し追加関税を検討していると、USTR（米国通商代表部）が発表したこと。
- 一部の州では、新型コロナウイルスの新規感染者や入院患者の増加が加速していること。
- ニューヨーク、ニュージャージー、コネティカットの米国北東部3州が、新型コロナウイルスの感染率の高い州からの訪問者に対して、14日間の自主隔離を義務づけると発表したこと。

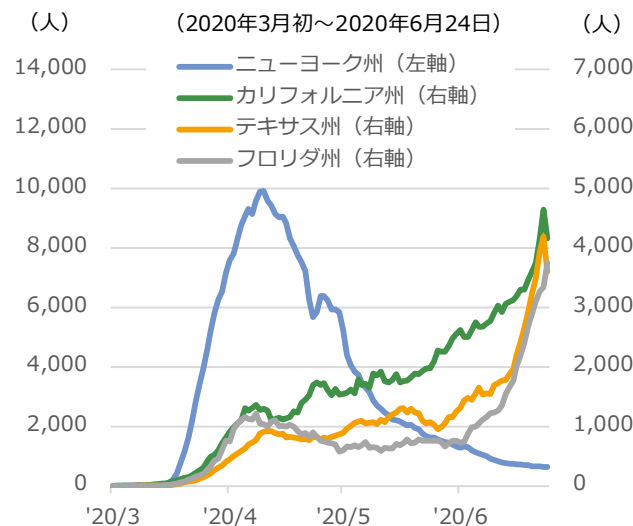
新型コロナウイルスの感染拡大により経済活動が再び抑制されれば、投資家心理は大きく悪化し、株価に下押し圧力がかかるとみられます。一方で、大規模な追加経済対策も検討され始めており、当面はプラス・マイナス両面の材料が交錯する展開となりそうです。なお、政策に関連して、11月の大統領選挙・議会選挙の動向にも、そろそろ注意が必要です。仮に大統領、議会とも民主党が優勢となれば、法人税減税の見直しなど、政策転換の可能性が意識されることも考えられます。

米国の株価指数の推移



(出所) ブルームバーグ

新型コロナウイルス新規感染者数の推移



※新規感染者数は7日移動平均

(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。